

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム いくくしみの郷
(ユニット名)	2階
所在地 (県・市町名)	静岡県浜松市浜北区平口2406-1
記入者名 (管理者)	内藤三記子(長尾直実)
記入日	平成20年11月1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	施設全体で考えた理念を、表玄関に飾っている。以前入居されていた方が習字で書いてくれたもの。	○	理念をもう少し見やすい場所に貼りたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	個別ケアに力を入れ、取り組んでいる。本人が何を考えているか、何を求めているか、常に考慮できるよう努めている。	○	表玄関に飾ることでいつでも目に付くので、通るたびに確認して、常に再認識していきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	表玄関に貼りだされている。面会時のあいさつ、お便り、運営推進会議、個人面談を通して、理解してもらえよう取り組んでいる。		地域の方にも理解してもらえよう取り組みをしていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めている</p>	施設より1歩外に出たら、すれ違った人と「あいさつをするよう、心がけている。散歩やリハビリの送迎、受診時など、あいさつしたり、声を掛け合っている。近所で畑仕事されている方と、立ち話をすることもある。	○	これからも関わりを大切にして、近所の方も行事に参加できるような関係作りができたらいいなと思う。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	夏祭りや近所の専門学校の文化祭、幼稚園の行事にも参加させていただいている。しかし大勢人がいると落ち着かなくなり、一箇所に留まっていることが難しいこともある。	○	毎年、定期的に参加できたらいいと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	施設行事である納涼祭等にお越し頂き、施設への抵抗感をなくし、施設というものを知って頂きたいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価をすることで全体や自分の考え、行動などを見直すことができ、また第三者から見ての意見も取り入れられるので、その結果を厳粛に受け止め、改善につなげている。	○	評価で指摘されたことを少しでも良くすることができるよう、改善していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議が行われている。	○	もう少しご家族の参加を募って、内容の濃い会議にしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設行事である納涼祭にお誘いし、施設を知って頂く機会とした。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	家族の状況を考慮させ、活用させている方がいる。ホームに入居する前から活用されている。	○	権利擁護や成年後見制度について学ぶ機会を持ちたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加した職員もいる。そこでの内容を参考にし虐待と思われる行為が無い様意識している。	○	虐待など職員が問題になるものを議題として、勉強会を開くなどして、注意・防止していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>契約を結ぶ時には十分な説明をしている。</p>	○	落ち度がないよう気をつけていきたい。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>市から介護相談員として、月に1度ホームへの訪問がある。外部者との関わりを持つことで、職員には言えない不満や愚痴をこぼせる機会を作っている。職員も日頃からコミュニケーションをとり、不満や愚痴を聞いてできる範囲内で対処している。そして記録して、職員全体で共有できるようにしている。</p>	○	運営推進会議の時に介護相談員の方に参加してもらったり、介護相談員の方との話し合いの場を設け、意見をもらえるよう努めている。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>健康状態に変化があった時、おこづかいがなくなった時には連絡して、報告している。面会に来た際は、近況報告するよう心がけている。職員の異動については面会時等にご挨拶を交わしているが今年度に関しては移動はない。</p>	○	あまり面会に来られない家族には、書面及び電話等を利用して常に関係を密にしておきたい。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>職員は苦情等、必要に応じて受け入れ、対応している。運営推進会議に参加された家族からは、不満や愚痴など聞くことができています。</p>	○	家族の方が意見や不満や苦情を外部の方に伝えるシステムが特にないので、検討してみたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>職員に関連する内容に関しては、確認しながら進めるようにしている。入居の受け入れ等。</p>	○	職員がいろいろな場面で意見しやすい雰囲気を作れるよう気をつけていきたい。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>外出や家族との面談など、職員がいつもより多く必要な時は、必要にあわせて調整している。</p>	○	利用者や家族に迷惑がかからないよう、今後も調整に努めたい。
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>基本的に利用者にとって不利益になるような異動はしていない。今年度は職員の異動はない。</p>	○	激しく変わるような職員の異動は、今後も避けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	施設内においては順番に講師を担当し勉強会を毎月出来るようにしている。施設外研修は情報があつた時点で順番に行ける様に配慮している。	○	引き続き研修に参加して、知識を高めていきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム協会主催の施設交流研修には、参加希望のあつた職員は全員勤務内において参加させた。他の施設と比較することにより、施設内の改善につなげ、意識を高めることが出来た。	○	今後も、そのような機会にはより多くの職員を自ら行ける様に支援していきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	休日はリフレッシュが計れるように公休数を確保できるようにし、休日希望はほぼ通している。	○	メンタルメンでのケアが必要な時期に的確にアドバイスできれば一番いいのだが、なかなか把握しきれないのが現状。雑談を含めてもっと話をしていきたい。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	仕事上でいつもと変わった様子がある時には、気にかけて時にはこちらから声を掛けてみるようにしている。生活面でも仕事でも常に前向きに考えられるようにアドバイスしている。	○	前項目と同様で、なかなか把握仕切れていないのが現状。意識はしっかり今後もしていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	入居前に家族と共に本人も立ち合い、ホームを見学されている。その時に要望など聞くようにしている。アセスメントもとっている。	○	入居前に本人とも話しができるよう時間を作り、要望や不安など聞いて今後のケアに生かしていきたい。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	入居前にアセスメントをとり、要望や情報など家族が気の済むまで話を聞くようにしている。	○	家族とは入居前にアセスメントをとりながら話し合いの場を設けているので、要望や不安などいろいろ聞いていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居を前提にせず、相談者が何を求めているのかを面談の中でさぐり、長期的な視点で殿サービスが必要なのか一緒に検討するようにしている。	○	本人と家族がその時必要としている支援を協力医療機関の相談室とも連携をとり、うまく見極めていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設見学には出来るだけご本人にも同行して頂き、環境を気に入って頂けてから入居を決めて頂きたい旨説明。ご家族が可能であれば何度か足を運んでから入居いただいている。	○	家庭での部屋の様子なども聴取するのみでなく今後は、実際に訪問をしていけたらと思う。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごし喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も本人を頼ったり、相談したり、他愛もない会話を心がけ、信頼関係を築けるようにしている。日常生活や行事を通して、一緒に過ごし、喜怒哀楽を共にし、分からないことは教えてもらっている。	○	お世話させてもらっているという気持ちを常に忘れず、お互いが支えあえるような関係作りをしていきたい。本人から学ぶ姿勢を忘れずに接していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族にしかできないことををお願いし、役割を持ってもらうことで、家族にも利用者を支えるお手伝いをしてもらっている。外出や外泊も本人や職員と相談することで行うことができた、行事もできる範囲内で参加していただいている。	○	家族の方にもケアをお手伝いしていただいて、一緒に参加してもらうことで、本人と家族が良い関係を築けるよう努めていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	お互いが気持ちよく面会していただけるよう、情報は流すようにしている。	○	もっとよりよい関係を築いてもらえるよう、取り組んでいきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望になるべく近づけられるよう、支援している。自宅へ帰りたいと要望があれば、可能な限り帰って仏壇の手入れをしてきたり、なじみの店に出掛けている。	○	回数を増やしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	席替えに関して、仲の良い利用者同士をバラバラにしないよう、細心の注意を払っている。利用者同士の仲など考え、席や居室の位置を替えたり、孤立しないよう会話や行事などで慣れて、支え合えるようにしている。	○	仲の良い利用者同士はお互い支えあっているということを理解し、それぞれの関係を把握していけるよう努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されてしまっても、可能な限りお見舞いに行くようにしている。	○	関係を断ち切らない付き合いができるよう、日頃から家族との関係作りも大切にしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から利用者を見守り、よく観察することで、希望や意向など把握に努め、それに近づけられるよう検討している。家族や本人から希望を直接聞いたり、会話の中で把握しようと努めている。本人の生活環境を事前に把握し、ホームでもできる限り行えるようにしている。		普段の生活からホームでの暮らしの希望や意向を把握できるように、本人との関係作りに努め、伺ったときには話してもらえるよう努力している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人の生活環境を家族より情報として流してもらい、職員全体で把握できるように努めている。ホームでもできる限り行えるようにしている。	○	聴取した職員だけでなく読んだらチェックするなど工夫して、職員全員が把握できるように努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日よく観察し、生活記録を書くことで個別ケアができるよう努力している。本人の1日の過ごし方などを職員全体で把握できるようにしている。言動や食事、排泄、バイタルなど全てのことから現状を把握できるように努めている。	○	職員間でのミーティングノートの活用。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族から聞いた希望や意見を反映させて作成している。毎月のカンファレンスや、日々の業務内で職員同士話し合い、情報提供して意見を出している。それも取り入れて計画を各自取り入れている。	○	もう少し家族ともコミュニケーションを取り、意見などマメに聞いていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた場合は新しく作成している。家族とも方向性を話し合っている。	○	変化が生じた場合は本人ともきちんと話し合いえおして、方向性を見い出していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録を個別に記入し、ひとりひとりの情報をケアに活かしている。バイタルや入浴、排泄などチェックが必要なものは全て情報を共有し、役立てている。また、毎日出勤者全員で、気づきや発言など大事なことだと思うことは、記録するよう心がけている。	○	小さな変化でも落とさないよう、記録していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームの意義が活かせるケアをするよう、心がけている。買い物や散歩など、できる限りのことはすぐに対応している。	○	買い物や散歩以外でも、いろんなことにすぐに対応していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	市が運営している娯楽施設の利用や本が好きな人には図書館の活用をしている。	○	もっと利用範囲・協力範囲を増やしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームに入居しての他のサービスの利用はできないが、帰宅願望の強い利用者の自宅復帰に向けてのたのサービス次行者との話し合いは必要時設けている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護事業の利用をしている方の受け入れはしている。要支援の方の受け入れ実績が無くセンターとのかかわりはあまり無いが空き状況の問い合わせには応じている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設医を協力医療機関との間で決めているが、かかりつけ医の指定が特別あるようであれば、その意向に沿うようにしている。	○	それぞれ安心できる病院を用意していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関に主治医がおり、精神科受診も同じ先生に診察を受けている。職員が生活状況をお伝えし、必要に応じて内服処方されている。	○	引き続き主治医の先生に診ていただく。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	施設内、管理者が看護師であり職員だけでは判断できないことを看護師に相談し、指示を受けている。体調不良があれば、報告して指示を受ける。	○	引き続き分からないことは気軽に相談していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	併設の病院の場合は、常に情報を流してもらい交換しあっている。本人の気持ちを常に考え、医師との情報交換を密にして、利用者が一番安心して過ごせるよう努めている。その他の場合でも、家人から状況を伝えてもらっている。	○	入院しても安心してもらえるよう、職員にできることをできる限り取り組んでいきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ケアプランの説明を兼ねて家人面談を実施しており、その際プランの同意を得ると共に長期的な見通しを家人と話し合い、方向性を確かめるようにしている。	○	全員で重度化した場合や終末期のあり方について、きちんと理解したうえで方針を共有していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者が生活上不都合を生じる恐れがある場合には、はやめに予測を立て、ご家族及び主治医とそうなんするようにしている。	○	事業所として「できること・できないこと」を見極め、検討や準備をしていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	不安を最小限に抑えられるよう、家族と念密に話し合っている。本人に打ち明けるタイミングを充分考えて、落ち着いた状態で臨めるようにマンツーマンで話す時間を設けるなどして支援している。また移転先で配慮いただけるようにサマリーを用意している。	○	本人の状態を常に把握して、打ち明けるタイミングには気をつけていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の性格を尊重し、プライバシーを損ねるような言葉かけは行わないよう、充分気をつけている。記録などの個人情報には他利用者の目に入らないようにしている。場合によっては本人にも。	○ 今後も言葉かけや対応には充分気をつけていきたい。個人情報の取り扱いにも充分気をつけていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	分かりやすい説明を心がけ、本人の決断を最優先している。利用者のわかる力に合わせて説明し、本心話してもらえようマンツーマンで話す機会を作っている。	○ 希望や想いを聞き出しにくい方からも遠慮しないで、話を聞けるよう努力していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペース・生活習慣を大切に、職員本位にならないよう注意し、その日その日に合った生活ができるよう支援している。しかし努力はしているが、職員の都合が優先している時があるかもしれない。	○ 決して急かしたりせず、職員の都合は考えないよう充分気をつけていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	できる限りなじみの美容室へ行きたい方には送迎を行っている。ホームに来て頂いている出張美容院に頼んでいる方もおり、カットを頼むときは「どんな感じにしたい?」と本人に要望を聞いている。また毎日の洋服選びも一緒に行っており、出掛ける際には化粧をされる方もいて、それぞれ楽しまれている。	○ 要望には今後も対応していきたい。その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう、小さなことでもお手伝いしていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の準備は基本的に利用者に任せており、足りないことは職員が手を出している。できる方には盛り付け等一緒に行っている。味の好みは調味料で変えたり、食べやすいよう小さく刻んでいる。片付けみできることはお願いしている。週2回昼食作りの場を作り、入居者の好きなものや季節のものを楽しめるよう取り入れている。	○ 食事の大切さを常に認識し、楽しいものにできるよう、さらに努力していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒やたばこは支援していない。飲みもの、おやつは好みに合わせて日替わりで出している。コーヒー・牛乳・麦茶等、好きなものを提供し、望まれたものは揃えられるようにしている。月に一度フロア全体で買い物に行き、そこで好きなものを買っているが、よく食べるものや使用するものは、その都度購入し、常に楽しめるよう支援している。	○ 望まれたものは今後も揃えられるようにして、本人の楽しみを失わないよう気をつけていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中は極力紙パンツは避けている。なるべく布パンツで失敗しないように声掛けを行ったり、外出時や夜間のみパットを使用している。排泄の支援が必要な方には記録表を使用し、トイレの使用時間や感覚・習慣を把握できるようにして支援している。	○	同じように取り組んで、失禁等を減らしていけるよう排泄記録表を上手に使用しながら支援していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望や体の調子、気分に合わせて調整し、入浴されている。自宅で入浴していた時間に入れるよう組み立てたりもする。強めに押さないとめんどくさがる方もいるが、気持ちよく入ってもらえるよう、うまく声掛けするよう努めている。	○	強制せず一人ひとりの希望に沿った時間に入浴できるよう、支援していきたい。入浴剤の使用など、入浴を楽しめる工夫をしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝は大事なことで捉え、その時間帯は訪室しないようにしている。夜間も本人の生活習慣や生活リズムを尊重し、早めに寝たり、遅くまで起きたり、と気持ちよく休んでもらえるよう支援している。	○	安眠・休息はとても大事なことで、今後も充分配慮していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意なことをお願いしてみたり、役割を作って頼んでみたりする。何もやることなく暇な時間がないよう、散歩・ゴミ捨て・裁縫・読書など好きなものを探して支援している。しかし、利用者の希望に充分には沿えていない。	○	利用者の好きなものを探しながら、本人に希望をきちんと聞くことによって楽しみごとや気晴らしの支援を引き続き行っていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金や財布を管理できない方は、おこづかいを預らせていただいているが、買い物の際は自分の財布を渡して自分で支払いできるように支援している。普段は鍵を掛け、必要に応じて出し入れしている。	○	お金に関しては職員も慎重に扱い、なるべく一人ひとりの力に応じた支援を行っていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	集団ではなく、外へ行きたい時には散歩など個々に出掛けられるようにしている。ゴミ捨てとして散歩に出たり、草取りとして外に出たり、ハガキを出しにポストまで歩いてみたり、と少しでも外へ出掛けられるよう努力している。家人との外出や家族のお見舞い、買い物など可能な限り支援している。しかし、一人ひとりの希望にはなかなか叶えられていないかも	○	一人ひとりの要望に答えられるよう努力していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行ってみたい場所はあまり聞かないので分からないが、月に一度買い物や外食、ピクニックなど積極的に出掛けて、とじこもりの生活にならないようにしている。また、マンツーマンだからこそ行けるような場所、図書館や服を買いに行ったり、自宅に帰るなど出掛けられるよう努めている。	○	全員が行きたい場所へ出掛けられるよう、回数が増やせるよう、努力していきたい。家族とは出掛けられる人もいるが、行きたいところがあっても職員に言えなかったり、諦めていることがあるかもしれないので、会話の中から見つけていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は職員室にあるので、要望があれば代わりに番号を押してあげたり、かかってきた電話を取り次いでいる。手紙も書けるように切手や便箋を用意してあげたり、ポストまで一緒に出しに行くなど支援している。	○	気軽に電話や手紙を使用できるよう、引き続き支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問はいつでもでき、面会時間も特に制限していない。面会にみえたら職員もあいさつを心がけ、お茶も運んでいる。大勢でみえた時は広い部屋も使ってもらっている。	○	新しくみえた方にも気軽に訪問してもらえるよう、職員から声を掛けたりしている工夫していきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない。および拘束した時のフラストレーションも心得ている。	○	拘束する道具を置くことなく、引き続きそれぞれに合ったケアを行っていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の戸には鍵を掛けていない。エレベーターのスイッチにはカバーをして、エスケープ予防をしているが、入居者にはきちんと説明をしていつでも外へ出られるよう繰り返し伝えている。玄関も鍵は掛けていないが、交通量が激しく一人で出ていってしまうことのないよう工夫している。	○	閉じ込められているなど圧迫感を感じるような生活にならないよう、気をつけていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の所在にいつも気を配り、しかし監視のような気配りには気をつけ、普通に生活できるよう支援している。特に外へ行きたい気持ちが強い方の所在は常に把握できる注意している。のれんをかけるで戸を閉めず過ごすことができ、少し覗いて安全を確認できている。	○	監視されているような気持ちにさせないように、引き続き気をつけていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	高価なものや無くしたら困るものは極力ホームに置かないようにしていただいている。もし置く場合は家族や本人とキッチンと話し合い、職員がよく把握しながら管理している。	○	本人にとって必要なものはホームに置いていただき、ものを無くしてトラブルの元にならないように、今後も気をつけていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のケアの中や勉強会にて知識を学び、事故防止に努めている。研修にも参加することもある。事故が起きた場合は再発防止のため、職員間で話し合いの場を作っている。転倒防止のため、居室にはマットを敷き詰めている。	○	事故には引き続き細心の注意を払い、防止に取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会などで応急手当の方法を学んだり、確認をすることはあっても、定期的な訓練はしていない。	○	応急手当や初期対応の定期的な訓練開催。具体的に起きたことに対しての対応を知る機会があった方が安心できると思う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に一度、ホーム全体で防災訓練を行っている。	○	地域の方たちの協力を得られるように働きかけていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時の話し合いや家人面談、面会時に家族とキッチンとリスク等について説明し、話し合っている。理解していただけるよう努めている。	○	ちゃんとリスク等を家族に説明して理解を深めてもらえるよう、努めていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日検温と血圧測定を行い、必要な方には毎日体重測定も行い、記録している。体調の変化や異変に気付けるよう努力している。いつもと違う様子に気付いたら職員同士で報告し合い、看護師にも伝えて対処している。また生活記録や申し送りノートに記録し、職員全体が把握して対応できるよう努めていきたい。	○	毎日利用者の体調について職員全体で把握できるよう、努めていきたい。小さなことも記録は落とさず記入していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報を職員全体で見ても把握できるようにしている。完璧ではないかもしれないが、ほとんどの目的を理解して症状の変化の確認に努めている。服薬時も一人ひとり食べ終わったら直接手の平に乗せて渡している。	○	薬について充分理解するよう努め、分からないことは看護師に直接聞いて疑問を解決するよう努めていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の恐れがある方や排泄チェックが必要な方には表を使用したり、毎日有無を聞いている。薬にてうまく調整している方もいる。できるだけ薬に頼らず、飲食物の工夫で排泄できるよう努めている。毎朝ブルーベリーを食べたり、おやつにサツマイモ、寒天ゼリー、バナナヨーグルトを提供している。また散歩に出て歩いてきたり、テレビ体操をしている。	○	便秘は利用者の皆さんがとても気にしていることなので、個人に関わらず、全員に働きかけていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自分から進んで歯磨きが出来ない方への声掛け、見守り、チェック等の支援をしている。また口頭で手順を指示したりしている。しかし全員に声掛けは行っておらず、歯磨きできたかは把握しきれしていない。	○	全員に声掛けしていき、歯磨きが行えたか把握していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事以外でも10時と15時にお茶の時間を設けて、部屋に届けたり、食堂に呼んで飲んでもらっている。残した量も多ければ再度声掛けし飲んでもらう。夏場や水分を控えたりする方には気をつけ、野菜を残す方にはご飯の量を減らして声掛けを行っている。食事量や水分量を記録し、特に夏場は脱水にならないように注意している。	○	栄養摂取や水分確保は大事なことから捉え、毎日充分な量を摂取できるよう、一人ひとりの把握に努めていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザやノロウイルスは予防をはじめ、対応の取り決めがあり、全体で実行している。手洗いの徹底をし、入浴のお湯は一人ひとり換えている。水虫のある方は個人用マットを使用し、バスマットも一人使ったら替えている。	○	普段から感染症に対する予防を徹底していき、もし流行してもすぐに対応できるようにしていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の管理、台所の清潔を心がけ、食中毒にはならないようにしている。また、毎晩食器や湯のみをハイター消毒したり、盛り付け時の手袋着用をしている。残したおかずは早めに処分している。	○	引き続き食中毒には細心の注意を払って食品を扱っていききたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	面会者名簿を玄関に置いたり、外に鉢植えを置いて心地良くホームに来てもらえるような雰囲気を出せるよう努めている。余分なものは置かない。	○	安心して出入りしてもらえるように引き続き工夫していきたい。外玄関の草取りはもう少しマメに行きたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室前にトイレがある方には、トイレ前にのれんを使用し不快にならないようにしている。食堂にも余分なものは置かず、季節の花を飾ったりしてキレイに使えるよう心がけている。日差しが強い時にはカーテンを閉めている。外の機械音が不快に思い、窓が開けられないことがある。	○	家庭の雰囲気をもう少し出せるように工夫していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の食堂横の畳の間や、エレベーター横の外が見える所にソファを置いて、それぞれ静かに過ごされている。食堂のテーブルを少し離すことにおいて、仲の良いグループができやすくなっている。	○	いつもワイワイ騒がしい空間に限らず、少し静かに一人で過ごせるような空間や雰囲気作りに努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッド以外は昔から使用していたもの、本人の使い慣れたものを持ち込んで使用していただいている。本人の使い勝手のよいようにして、職員は必要な限りいじらない。	○	入居される時はどうしても新しい家具を購入される方が多いので、使い慣れたものを使う大切さを家族に伝えていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除の時や天気、気温に合わせて窓を開け、換気に努めている。エアコンの温度調整も職員ではなく、利用者に合わせるよう心がけている。エアコンと自然換気をうまく使い分け、気温と室温の差が激しく大きくならないように調整している。	○	温度調整には充分気をつけ、換気をこまめに行っていきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の造りは同じだが、一人ひとりの身体や好みと安全に生活できるように工夫している。床にマットを敷いたり、洗面台には手すりも付いているので、うまく利用して一人で洗面できているj方が多い。廊下にも手すりが付いており、上手に使って歩かれている方もいる。	○	身体機能を活かして生活できるような工夫ができるよう、発見して職員間で検討・話し合っていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの理解力を把握するよう努め、分からないことは一緒に考え、できないことは補助・手伝いをする。張り紙をするにしても、利用者の目の高さに合わせたり、字を大きくするなどして、少しでも工夫している。しかし混乱や失敗を防ぐことは難しい。	○	混乱や失敗を少しでも減らせるよう、本人のわかる力をもっと理解してそれに対応していくよう努力していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには物干し竿があり、日中職員と洗濯物を干している。誕生日にプレゼントした花を陽の当たるベランダに置いて水やりが日課となっている方もいる。またベランダに出て外の空気を吸って涼んだり、外の景色を楽しんだり、といろいろ利用している。	○	ベランダをうまく使って利用者が楽しめる場にできるよう、職員同士で話し合い、工夫していきたい。季節の花を植えて、きれいにしていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

◎2階だけは週に2回昼食作りを行っている。献立の決定や料理に時間がとられて大変ではあるが、ワイワイがやがやと、にぎやかな雰囲気の中に行われている。それにより不穏になる方もおらず、逆にお喋りが弾んだり、いきいきと料理をされている。

◎職員の都合ではなく、個人の希望する時間に入浴ができるよう力を入れて努力している。それぞれ入浴したい時間を聞いて、職員がうまく調整している。

◎毎月の行事は買い物以外に外食やピクニックなど、日常では行けないような所に出掛けられるよう努力している。季節感を味わえるような行事になるよう心がけている。今年の春には二度目の蕁狩りへ行ったり、秋には初めての試みとしてぶどう狩りへ行ったり、家族の方と初めての外出として、まずは近場の公園でピクニックへ出掛けたりと、毎月の行事にも力を入れている。利用者の皆さんは全体的に外出が好きな方が多いので、その要望に答えられるよう努力している。